

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「ロボットとの未来について考えよう」 教材名「「弱いロボット」だからできること」

2 単元の目標

文章と資料の情報を整理し、必要な箇所と出典を記録できる。文章と資料を結び付けて事例の意味を捉え、人とロボットとの関わりについて自分の考えをまとめられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文章と資料の情報を整理し、必要な箇所と出典を記録している。 (〔知識及び技能〕(2)イ)	①「読むこと」において、文章と資料を結び付けて事例の意味を捉え、人とロボットとの関わりについて自分の考えをまとめている。(C(1)ウ・C(1)オ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

ロボットの働きについて文章と資料を結び付けて読み、弱いという語の使われ方と、人との関わりについて考える。性能が低いと決め付けず、事例が何を示すために書かれているかを確かめる。学習指導要領のC(1)ウ・C(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)イを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

本文の事例、資料が示す情報、書き手の考えを分けて対応させる。写真から確かめられない効果は推測として記す。未来のロボットを創作する前に本文への考えをまとめる。おおむね満足できる状況は、文章と資料を結び付けて事例の意味を捉え、人とロボットとの関わりについて自分の考えをまとめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○題名への印象を書き、全文と資料を読む。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○ロボットの事例と書き手の考えを整理する。	知①（語句や内容の整理）
	3 （本 時）	○文章と資料を対応させ、弱いという語の意味を考える。	思①（発言・学習記録）
	4	○人との関わりへの根拠を添えて自分の考えをまとめる。	学習状況を見て支援する。
	5	○図書で確かめたいことを調べ、本文と追加資料を分けて話し合う。	学習状況を見て支援する。
第3次	6	○意見を直し、文章と資料を合わせて読んだことを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (3/6)

(1) 本時の目標

文章と資料を結び付けて事例の意味を捉え、人とロボットとの関わりについて自分の考えをまとめられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「ここで「弱い」と表されているのは、どんな意味でしょう。文章と資料のどこを基に、人との関わりを考えましたか」 【めあて】ロボットの働きについて文章と資料を結び付けて読み、弱いという語の使われ方と、人との関わりについて考える。 〈予想される児童の反応〉 ・ できないことがあるために人が関わる場合がある。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「ここで「弱い」と表されているのは、どんな意味でしょう。文章と資料のどこを基に、人との関わりを考えましたか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・ できないことがあるために人が関わる場合がある。 ・ 全てを代わりにしてくれることだけが働きではない。 ・ 資料と本文を合わせると事例のねらいが分かる。	本文の事例、資料が示す情報、書き手の考えを分けて対応させる。写真から確かめられない効果は推測として記す。未来のロボットを創作する前に本文への考えをまとめる。 想定する難しさ：弱いという語を悪い性能と同じだと考える。本文にないロボットの能力や効果を加える。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 文章と資料を結び付けて事例の意味を捉え、人とロボットとの関わりについて自分の考えをまとめている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・ 資料と本文を合わせると事例のねらいが分かる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「ここで「弱い」と表されているのは、どんな意味でしょう。文章と資料のどこを基に、人との関わりを考えましたか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

